

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 1 回上越市食育推進会議

2 議事（公開・非公開の別）

（1）第 3 次上越市食育推進計画及び上越市食育推進実施計画（アクションプラン）
について（公開）

（2）食育推進についての意見交換（公開）

3 開催日時

平成 30 年 8 月 17 日（金）午前 10 時から正午

4 開催場所

上越市役所 401 会議室

5 傍聴人の数

0 名

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：野口孝則、井上智代、池嶋聖也、上野則子、岩崎洋一、山本敦子、小林小枝子
坂口祐輔、樋口聖子、平澤栄一、松井和代、西舘茉侑、八木智学、近藤直樹
柳澤祐人

・事務局：農村振興課：桐木課長、沢田副課長、谷川係長、北山主任
健康づくり推進課：外立上席保健師長、保育課：外立副課長、農政課：太田副
課長、教育総務課：塚田副課長、学校教育課：手塚副課長、社会教育課：福山
副課長、上越ものづくり振興センター：山中副所長

7 発言の内容

(1) 開会

事 務 局： ただ今から、平成 30 年度第 1 回上越市食育推進会議を開催いたします。

本日、司会を務めます事務局の農村振興課・谷川でございます。よろしくお願
いいたします。

本日の会議ですが、お手元の上越市食育推進会議規則の第 2 条第 2 項の規定
では、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないとありま
すが、本日は、委員の半数以上の出席がありますので、会議を開催できますこと

ご報告させていただきます。

まず、議事に入ります前に、会議資料の確認をさせていただきます。お手元の配布資料一覧にごございますとおり、先日、資料No.1 から資料No.6 をお送りしておりましたが、本日ご持参いただいておりますでしょうか。

また、本日配布させていただきました資料

- ・上越市食育推進会議委員名簿
- ・座席表
- ・上越市食育推進条例・上越市食育推進会議規則
- ・資料No.7「食育推進に対する委員意見一覧」
- ・食育啓発用クリアファイル
- ・県立歴史博物館出前講座のご案内

をお配りしておりますが、過不足等はございませんでしょうか。お持ちにならない方はお申し出てください。

また本日の会議は正午を目途ということでお願ひします。

それでは、会に先立ちまして、農村振興課課長 桐木より一言ごあいさつ申し上げます。

桐木課長： この度は、上越市食育推進会議委員の任期満了に伴い、新たに、皆様から快く委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。皆様には今後2年間、上越市の食育を推進していくために、それぞれのお立場からのご意見、ご助言を賜りますよう、ご協力をお願いいたします。

さて、食育に関しましては、国が平成28年度から32年度までの5年間を計画期間とする第3次食育推進基本計画を策定し、上越市では、国の計画を受け、平成29年3月に第3次上越市食育推進計画を策定しました。平成18年6月23日に上越市食育推進条例を制定し、翌年11月には第1次上越市食育推進計画を策定して以来、行政、教育関係者、保健・医療・福祉関係者、農林漁業者、食品関連事業者、そして市民が一体となって、食育の周知・啓発から実践へと取組を進めてまいりました。

ご案内のとおり、食育は一生涯にわたって健全な食生活の実現、心身の健康増進、豊かな人間性の形成を狙いとしており、これまでの食育推進の取組成果とし

て、学校や保育園現場における食育の充実など、一定の進展が見られたものの、食をめぐる課題を大きく見れば、全国での課題と同様に、食生活の乱れや朝食の欠食などが当市でも散見されております。

これまで以上に食育推進活動を充実させ、食育が地域に根差し、継続的な活動として定着させていくことが重要と考え、第3次上越市食育推進計画では、食育の「実践の環を広げる」ことをキーワードに計画を策定しております。

委員の皆様からは、上越市食育推進実施計画アクションプランの進捗管理はもとより、食育推進に係る忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。

そして、それぞれのお立場で食育活動を実践されております皆様とともに、上越市の食育推進を益々図ってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。

はじめに、委嘱状の交付を行います。お手元に委員名簿がございますのでご確認ください。時間の都合上、代表して本日出席委員で、名簿の先頭になっていらっしゃる野口 孝則 様に委嘱状を交付いたします。委任状の交付は、農林水産部長 近藤直樹が行います。

《委員を代表し野口孝則委員に委嘱状を交付》

事務局： 恐れ入りますが、野口様以外の委員の皆様へは、前もってお席に委嘱状を置かせていただきましたので、ご確認をお願いいたします。

なお、任期は、平成30年7月26日から2年間となっております。よろしくをお願いいたします。

また、今回は、委員改選後初めての会議となりますので、名簿の上から順に、お一方ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。なお、高橋委員、藤田委員、笹原委員、吉村委員、松原委員につきましては、事前に欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告いたします。

それでは、野口委員から順にお願いいたします。

《委員自己紹介》

事務局： ありがとうございます。

続きまして、上越市役所内の食育推進担当各課より自己紹介を行います。

《上越市役所内食育推進担当課自己紹介》

事務局： それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

次第の「3 会長選出」です。

本日お配りいたしました上越市食育推進条例をご覧ください。条例第7条第4項により「推進会議に会長を置き、委員の互選により定める」こととなっております。会長選任に当たり、推薦案など皆様からご発言をいただければと思います。

平澤委員： 事務局推薦案を求めます。

事務局： 事務局推薦案としまして、会長には上越教育大学大学院教授の野口孝則委員からお願いできればと考えております。皆さん、ご賛同いただけますでしょうか。

《出席委員全員から了承を得る》

事務局： それでは、互選により会長は野口委員となりました。野口委員、中央の席へご移動をお願いします。それではこれから先は上越市食育推進会議規則第2条第1項により、野口会長から議事運営をお願いしたいと存じます。

野口会長： 今ほど会長に選出されました上越教育大学大学院の野口です。今回が委員として2期目になりますけれども、上越市にきて3年しか経っておりません。4年目に入っています。今回の会議に参加しています食育サークル「Heart」の立ち上げから始まり、大学の中でどんな食育ができるか、上越教育大学が4大学目になりますが、途中厚生労働省の係長ポストをやりましたが、研究員として専門は食、栄養学です。おいしいなと思ってご飯を食べることが幸せにつながるということで、体と心の健康につながる食をテーマに行っています。今でも学生に授業でそういったことを教え、サークルの学生とともに収穫体験、調理実習を行っているところです。

食育ができる教員を育てることが上越教育大学のミッションではありますが、それに限らず、上越に来て私が感じているのは、これだけ豊かな自然、文化、歴史がある上越市において育まれたおいしい食があることは、本当に恵まれているなど実感しています。あちこちで紹介を受ければ、通って地元の食材や伝統料理を教えてもらうのが本当に楽しい時間であります。学生たちもそれを満喫しています。全国各地で食育を見てきましたが、上越市の食育は本当に満足しています。この会議においても「まだまだだ」という意見もあると思いますが、もっと自慢

できる場所はあると思いますので、上越市民がよい食材、料理を楽しみながら食育が進んでいる上越、全国の食育先進地、食育がさかんな地域として上越市をPRできたら、我々がそれを発するだけではなくて、市民の皆さんがそのような認識になっていただけることが、我々の目的だと思います。

この会議において、会長という大役を務めさせていただきますが、皆さんのご協力あつての食育推進会議だと思いますので、ぜひとも忌憚のないご意見、さらには新たに建設的なご意見を皆さんから頂戴できたらなと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それではしばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(1) 議事 第3次上越市食育推進計画及び上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について（公開）

野口会長： お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

次第の「4 議事(1)第3次上越市食育推進計画及び上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について」、事務局から説明願います。

事務局： 農村振興課で副課長を務めております沢田です。私の方からしばらくの間説明をさせていただきます。

最初に資料1「第3次上越市食育推進計画」1ページをご覧ください。

国の食育基本法は、平成17年7月に施行されたわけですが、当市では、県内でもいち早く平成18年6月に食育推進条例を制定し、平成19年11月に第1次食育推進計画、平成24年3月に第2次食育推進計画、そして平成29年3月に、この第3次食育推進計画を定めてきました。

第1次計画では、食育という言葉や内容を、多くの皆さんから知ってもらうため各種施策を展開してきました。続いて、第2次計画では、周知啓発から一歩進めまして、家庭を中心にして食育の実践に取り組んできました。

続いて、お手元のカラーの資料をご覧ください。第3次計画の概要版であります。第3次上越市食育推進計画は、平成29年度から平成33年度の5年間を計画期間としております。第2次計画までの取り組み状況を受け、第3次計画では、これまでの一人ひとりの食育実践から、関係する多くの皆さんの連携で、そ

の実践の環を広げていこうとしております。

計画の基本理念を「生涯にわたり心身ともに健康で充実した生活を送れるまち」と定め、「市民一人ひとりが自らの健康に関心をもって食を選びとっていく力を身につける」を基本目標にしております。基本方針という形で計画の柱を4つ置き、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・壮年期・高齢期の各ライフステージに応じた視点を明確化しているのが、当市の計画の特徴と言えます。

また、現状分析などから、「高齢者に対する食育の推進」、「地域での共食に対する支援」、「食品ロス削減についての啓発」の3つの課題に対して、新たな施策を盛り込んでおります。

そして、食育推進計画を進める上で、22の指標項目を定め、目標達成に向けて施策を実施しております。

つづいて、資料3「食育推進実施計画（アクションプラン）」をご覧ください。

推進計画に基づいて、より具体的な事業を規定し、施策の実効性を高めるために、この実施計画（アクションプラン）を定めております。

2ページからはアクションプランの推進に関わる方々の役割を整理・規定しているとともに、5ページには、プラン内の施策の体系を図で示しております。

続いて7ページからは、4つの柱・基本方針に基づいて、具体的な施策を列挙しております。左ページから右ページへ見開きでご覧いただきたいと思います。

このアクションプランの進捗状況は、資料4に示しております。

第3次計画の初年度・平成29年度の状況は、「計画した以上に成果が挙げた」ものが2事業、「計画通りの事業を実施した」ものが32事業、「計画された事業に取り組んだが成果が不十分だった」ものが12事業と、二重丸・丸・三角で示しておりますのでご覧ください。

お配りした資料は、一覧表のみではありますが、1事業ごとに進捗管理表を作成して、事業の実績や課題等を整理して次年度に繋げることであります。年度末に開催します推進会議にお配りして、委員の皆様方からご意見をいただくこととしておりますので、ご承知おきください。

資料6をご覧ください。市役所内では、関係課の副課長級職員を、「食育推進担当」と位置付けまして、関係課の窓口・推進役を担っております。

資料5をご覧ください。この3月にまとめた資料ですが、平成30年度の関係課の具体的な事業を掲載しておりますので、推進計画、アクションプランとともにご覧いただきたいと思います。

健康づくり推進課、保育課、教育総務課、学校教育課、社会教育課、農政課、農村振興課の各事業です。ものづくり振興センターが、この4月から新たに関係課として加わっております。発酵食品の振興など地域の食文化の継承といった面から食育の推進を担うこととしております。

以上のように、市の食育推進計画に基づいて、関係施策の大枠を説明させていただきました。

推進会議の委員の皆さんからは、今回の任期の中で、推進会議や他の場面でも、これら施策・事業の推進にご意見をいただきたいと思いますし、また、進み具合、進捗管理についても、説明させていただきますのでご意見をお願いしたいと思います。説明は以上です。

なお、事前にお配りした資料に対して、調査の数値やグラフ、表や図のまとめ方や見せ方に対して、改善のご意見もいただきました。これらにつきましては、次回第4次計画を策定する際の調査などに役立たせていただきたいと思います。ありがとうございました。

野口会長：説明ありがとうございました。それでは皆さん、ただいまの説明を受けてご質問、ご意見等をいただきたいと思います。

岩崎委員：市民委員の岩崎です。自宅に送られた資料を事前に見させていただいて、非常に多岐に渡って苦勞されている姿が分かりました。個人的な意見ですが、数値的な目標設定が少し不足しているように感じます。今、事務局から「○」「△」などの説明がありましたが、それぞれの感覚が違うので、数値で出さないと本当にどれだけ達成したか見えづらいところがあります。

もう一つは結果だけ出されていますが、どういうアプローチをしたか、どういう努力をしたかが重要で、それがしっかりしていないと次のステップに進めない、あるいはもぐら叩きになってしまう。しかも1年2年で委員が交替となってしまうと、過去の実績が忘れかけてしまうということが心配されます。

あと、分析の方法ですが、今統計分析ツールで「ミニタブ」というものがあり

ます。例えば、今回の資料で平均値がよく使われていますが、本当は中央値で分析していただきたいと思います。平均値ですと、突発したものも吸収され、ある年代で出ているものも隠れてしまう弊害が出る危険性があります。できれば統計のツールを使っていただいて、グラフ化してより深い考え、結果を導き出し、反省し、次に進めるといいと思います。

事務局： 今ほどご意見いただきありがとうございます。説明の中で簡単に触れましたが、皆様のお手元に「○」や「△」で表した一覧表しかお示しできなかったのですが、進捗管理表を持っておりまして、これには具体的な数値を入れてあります。これをお届けできなかったことが今のご意見につながったのかなと思いますので、改めて平成 29 年度の進捗管理表をお送りします。年度末の進捗管理の評価で、個別にもう少し具体的などころでご意見をいただけると助かります。

野口会長： 今、委員からご指摘のあった集計の仕方であったり、分析のデータ数値の見方について、市でまとめてもらっていますが、平均値のみならず、中央値や分布であったり、年次推移を確認しながら、確実に進めていること、実感できるものを年度で一喜一憂するのではなく、複数年見通した評価がよろしいのではないかと思います。

(2) 議事 食育推進についての意見交換（公開）

野口会長： それでは食育推進についての意見交換に移ります。

今日は新しいメンバーになって第 1 回目の会議となりますので、食育推進についての意見交換を行いたいと思います。それでは事務局説明をお願いします。

事務局： それでは資料 7 をご覧ください。

食育推進会議については、年間開催回数も限られております。また、委員改選ということもありましたので、今回は、委員の皆さんには大変お手数をおかけしましたが、事前に食育に関するお考えなどをお書きいただきました。いただいたご意見をまとめまして、資料 7 として本日お手元にお届けしました。

本日は、この資料 7 に基づいて、皆さんの意見交換を進められればと考えております。見ていただきますと、3 点あるかと思えます。「食育に関連した取組み、今度の取組」、「上越市の食育推進についての課題」、「上越市の食育推進についての想いや意見」をいただきたいと考えております。資料 7 につきましては、

いただいた意見については、私どもの方で見させていただき、食育推進計画のどの辺りと関係するかを記載していますので、合わせてご覧ください。

野口会長： 今ほど事務局から説明がありましたが、資料7に委員の皆さんから事前にいただいたご意見がまとめられております。ちなみに、会議の年間の開催数が限られているということですが、年間何回開催することになっているのでしょうか。

事務局： 年間2回予定しています。今年度については、本日及び年度末の2月頃になります。

野口会長： と言いますのは、このくらいの頻度での開催ですので、1回目だから緊張して何も言えなかったというよりも、本年度はあと評価での意見集約となりますので、皆様それぞれのご意見をおしゃっていただければと思います。本日は、ある程度目で追いながらも、今後の上越市の食育推進に向けての皆さんの想いをお聞かせいただければと思います。特に先ほどの資料の中で、子どもに向けて、子育て中の保護者に向けてというご意見が多いように感じております。皆さん子育て世代に向けた食育が中心であろうと考えておられるのかなと思いますし、それに向けて、学校や保育園だけががんばればいいのではなく、家庭に向けてなど、幅広い委員が集まりましたので、ご意見をいただければと思います。

それでは、子どもに関して、あるいは子育て中の親世代に対して、食育についての課題や今後こんな取組が必要なのではないかということについて、意見のある方お願いいたします。

小林委員： J Aえちご上越の小林です。J Aではいろいろな場面で食育をやっておりますが、今、私がおります地域ふれあい課では、いろいろな世代に対して食の情報発信、講習の実施を行っています。子どもに関しては教室を毎年やっておりまして、それなりに好評をいただいております。保護者の方にも来ていただいておりますが、理解していただいている方は関心がありますが、課題になっているのは、その場面に出てこない人にどうアプローチしたらいいかということです。

子ども教室のほかに子育て世代を対象に「さくらカレッジ」を開催していますが、参集が少ない状況です。チラシを配ったり、広報等で発信したりしていますが、どこかでつながっていったらなと思っています。それ以外にもあるるん村ができまして、オープンキッチンがありますので、そこを活用して、若い子育て世

代の方もいらっしゃるので、そこに来る方に対して、簡単にできる地元食材を使った料理の紹介も考えていますし、次年度になると思いますが、これから子育てをする世代に対してアプローチをしていこうと計画しています。

平澤委員： 上越の食を育む会では、上越の伝統食の掘り起しなどを行っています。最近では、農業、食を作る部分に視点を当てたDVDを作り、大変さや喜びなど風土の食を考える努力をしてきました。

私自身思っていることは、上越は食が豊かだと思いますが、残念ながら今の方法でいきますと、農家が壊滅する状況にあります。法人化が進み、日本中の農家が、地方がなくなってしまうのではないかと思います。食ばかりでなく、文化もなくなってしまうわけで、私自身不満に思っています。

また、子どもだけでなく、大人のうつ病などの因果関係は食からくるのではないかという提案をよく耳にします。ご飯とみそ汁、漬物で育ってきた世代としては、今の子どもたちは特にたくさん肉を食べているわけでもない、特殊なものを食べていないのに、足がぐんぐん伸びる、頭が小さいなど、私の偏見かもしれませんが、ちょっと心配に思います。社会的な問題も含めて、食がすごく大事だと思っています。特に、地域の小さな農業を守ることが、上越市に関しては食を推進していく上で、大きく取り上げていってほしいことです。

今、ヤギを飼っていて、子どもたちが夏休みに見に来ます。地域の村の中で風土、触れ合う機会がない中で、食育推進会議が提案することか分かりませんが、食をめぐる問題が襲ってきていると思っています。

野口会長： 私も、特に大島、浦川原、安塚区に足を運びますと、今の話はあちこちから聞かれます。さらに、医者がない、看護師が欲しい、子どもが減少し、学校が統廃合になっていることなど、人口減少とともに地域をどう維持するか、農業に限らない話だと思います。

松井委員： 上越市総合型スポーツクラブネットの松井です。私も子どもたちの食生活を危惧しています。スポーツをしている子どもたちは、夜食べるのが遅く、寝るのも遅く、そして血液検査であまりいい数値が出ていない状況の中、今、オリンピック選手は、そういうことをしないと15年前に伺い、栄養教室を開催するようになりました。

まず、学校から帰ってきて、夜激しい運動をするということは、副交感神経が優位にならず、夜も遅くなる傾向がみられます。子どもたちに夜運動させるのはいいことではないのではないかと考えています。子どもたちの空き時間は、間違いなく放課後になりますので、放課後に活動ができれば一番理想だと思います。上越市は地方ですので、指導者は仕事を持っていて、子どもたちの活動は夜になってしまいます。従って、活動は指導者に合わせて夜になってしまう。今やっていることが非常に悪と思うこともあります。

一方、お母さんたちの生活は、非常に忙しく、子どもを夜、習い事にやっと送って、夕食を作り、子どもが帰るのをみんなで待って、お父さんも遅いので、9時頃から平気だと言ってはなんですが、夕食を食べます。そのような状況の中、食育とは何かと考えています。子どもたちが運動しながら、立派に成長できるように、自分の立場でどんなことができるか考えています。

朝、受付をしている時に、明らかに顔色、爪の色、目の開き方で朝ご飯を食べていないことがすぐに分かります。その時に梅干しのおにぎりを別室で食べさせることが私の精一杯のことです。本当にどのようにしたらよいか迷っているところです。資料7がもうちょっと早くいただけたらよかったです。皆さんのやっていることがここに来て分かって、こういう人たちと連携できたらいいなとか、いろいろなことを考えています。今、皆さんがやっていることと自分のやっていることと結び付けて、連携できれば一番いいことができると思います。私にとって今日はすごく収穫のある日になりました。

野口会長： 今、松井委員からもありましたとおり、それぞれの皆さんがそれぞれ独自に活動をしていながら、限界だと感じてしまい、その解決策が上越市内の他の団体の協力者と一緒になれば、例えば広報がスムーズになるとか、実践の取組がスムーズになるとか、食品・食材の動きがスムーズになるとか、それを5年、10年続けることで、例えば、個人的な意見ですが、農業の後継者問題、地域における医療問題においてもそうですが、今の小学生、保育園の子どもたちは食育によって、10年20年たった後には、その子どもたちが農学部や医学部に進学し、地元に戻ってくることを考えると教育は大切だなと思います。

一方、日本における食育推進を見ていきますと、食育基本法制定から13年経

ちますが、今の若い世代の皆さん、大学生、高校生が明らかに食育を受けて育った世代が、農業や地元の食を大切にし、朝ご飯をきちんと食べる親になっているのか、大人になっているかという点以外にそうっていない現状があります。全国的にも最近話題になっていますが、この十数年間の食育推進は成果があったのか、いろいろ取組んではいるものの、目に見える成果が見えていないのではないかとされています。私の個人的な意見ですが、数値で成果を上げることの難しさは統計学を学んでいればすぐに分かることですが、一方で上越市の市民が食の喜びや食への興味・関心が高まっているなど、やって良かったという身近なところでの実感が広がっていくことは、これからも続くでしょうし、それが実践の環が広がる秘訣ではないかと思えます。

山本委員： 市民委員の山本です。今、年2回の開催ということで、少しがっかりしています。こういう活動や組織があることを今日知って、1年間の結果を聞くだけで、いったい今日私は何ができるのだろうと思ったのですが、となると、個人的に皆さんが開催するイベントに参加するのが一番かなと思いました。

私の母の世代を考えますと、地域に婦人会があり、そこで情報交換をしていました。今はなかなか地域でのつながりが難しく、私も3ヶ月前に25年ぶりに上越に戻ってきて、同級生はいますが、皆さん忙しくてなかなか会えない。いろいろなイベントに誘いますが、一緒に行ってくれる人がいない。関心を持っている人はたくさんいるはずなので、まずはお茶会から始めてなど、主婦のネットワークなど地域で少しずつ拡大していけば、意識も変わっていくのではないかと思います。今の時点では何を始めればいいのか分かりませんが、途中で1回くらい会議を開催してほしいと思いました。

事務局： 私どもも皆さんの意見をいただいて、次の年の施策に役立てたいという思いもありまして、昨年の会議にはなかった意見交換の時間を取りました。

今回資料7にあります皆様のご意見は、今後の運営に役立たせていただきたいと思えます。野口会長からもありましたとおり、私どもも食育市民アンケートを、毎年3,000人規模で実施し、進捗管理に使用しておりますので、先ほどの資料と合わせて委員の皆様にお送りしたいと考えております。

野口会長： 山本委員、松井委員のご発言にもありましたが、この会議に来て資料7を見た

ことによって、上越市内にこういう方々がこんな活動をしていることを今日知りました、いろいろな人とつながってみたいなど、同じ思いの人は上越市内にもっとたくさんおられるのではないかとというのが私の実感です。そう考えますと、この会議の場に来ないと分からないのではなく、いかにして上越市内の実践の成果、取組、今度こんなことがありますなどの情報を発信するといいいと思います。

岩崎委員： 私からの提案ですが、市民公募の3人はやる気満々だと思います。ボランティアでもいいので、集まって意見をまとめて事務局に提出するというのはいかがでしょうか。

野口会長： ご提案ありがとうございます。この委員の皆さんですから、市への提案はもちろんですが、一委員として事務局宛てに情報提供や委員の中だけでなく、市民の皆さんを巻き込みながら、いろいろな活動が実践され、その実践の情報を、市役所を通して発信するのか、通さなくても広げていけるものもある中で、岩崎委員からのご提案があった自分ができることをやりますという人を市民の中に広めていくことが我々の狙いでもあり、目的でもあります。

今回は市民の代表として集まっていた皆さんですので、そのための方策として、市全体を考えながら、一方で自分自身何ができるかを考えながら取り組んでいただけたらと思います。

井上委員： 県立看護大学の井上です。資料7に書いてあることは、本当にさらっとレシピコンテストのことしか書いていません。看護大学に、上越地域振興局健康福祉環境部で大学生の食事アンケートの依頼がありまして、結果をまとめてもらいました。どんな調理器具を大学生が使っているかという項目があり、冷蔵庫をよく使う調理器具として認識していない学生が多く、自炊が学生の中でどのような状況になっているかが感じられます。

学生は実習が始まると多忙になり、実習と記録が中心で、なかなか食に時間をかけることが難しい。同じことが言えるのが、働くお母さんも仕事をして帰ってくると、本当は例えば伝統的な食事がいいと分かっているけど、そこにかかる時間が難しいと感じている。共働きとか核家族とか、大学生の様子を見ていると、食に関することに時間をかけることが難しい時代になっていると感じます。

上越地域振興局と市との情報交換や連携はどのようになっていますか。

事務局：健康づくり推進課の外立です。上越地域振興局、保健所との連携ですが、昨年度、上越市の健康づくり推進課では、健康増進計画を改訂しまして、その際に課題に挙がっていたことの一つとして、高校生や大学生といった若い世代の健康実態が把握できていない課題がありました。この点につきまして、保健所で実施しました食生活の実態調査等を活用させていただきました。現在、高校生に対する健康教育につきましても、上越保健所と連携して実施しているところです。

野口会長：このアンケートの結果について、上越地域振興局では、9月に行われます栄養改善学会学術総会の全国大会で学会発表をされると聞いております。学術的に結果を出していける上越市になっていけると面白いなと思います。学生の話が出ましたので、大学に入学して間もない上越教育大学食育サークルの西舘さんでしょうか。

西舘委員：私は栃木県足利市から上越市に来ました。4月から一人暮らしを始めて、時間のある時は、自炊をするようにしています。週末に1週間分の材料を買ってきて献立を考えて作っています。友だちは、自炊が難しく、寮の生活だと自炊はできないので、学生だと料理を作る環境が整っていない人も多いと思います。テスト週間やレポートの提出が続くと、忙しくなり、夕食を学食でとったり、買って食べたり、食べなかったりと自分たちで食を考えることが少なくなっていると思います。学生の中には授業を受ける中で興味を持っている人もいますが、興味のある人から進めて食に関心を持ってもらえればいいかなと思います。

坂口委員：セブン-イレブン・ジャパンの坂口です。お子さんの欠食が多いというお話ですが、なぜ欠食するのか、体型を維持したい、通勤に時間がかかる、働く女性が増えてきてご飯を作る時間がない、全国的にセブン-イレブンも女性や高齢者の利用が増えてきています。

高齢世帯や単身世帯が増え、今までであったらスーパーでたくさん買ってきてご飯を作ればよかったのですが、いろいろ買ってくると残して捨ててしまう、高齢の方であったら火を使うのが危ないということが多くなっています。

その中で、私どものほうも、保存料・合成着色料を10年以上前から使っていません。直近では、パンにはイーストフード、乳化剤を使用しない、ハムにはリン酸塩を低減したものを使い、揚げ物については使っている油もトランス脂肪酸を

低減したものを使用するなどの取組を行っています。

また、お客様に分かりやすくするため、1/2 食分の野菜が摂れる商品やおにぎり1個を食べるとレタス1個分に相当する食物繊維が摂れる商品を販売しています。実は、上越地域は他のエリアに比べて、このような商品の販売が鈍い傾向にあります。今回いただいた資料の中で、例えば、食品を特に意識することの中で、栄養バランス、おいしさの数値が高くなっていることから、こういったところに私たちの発信が足りなかったと思いますし、できれば、お子さんの欠食が多いということを紐解いていただくといいのかなと思います。

上越市にセブン-イレブンが入って32年目になります。まだまだコンビニエンスストアで商品を買うことについて、女性は恥ずかしいと思い、高齢の方は罪悪感を持つ人がいると思います。扱っている商品は他社もそうですが、安全性も変わってきていますし、食べるものの組み合わせ方だと思います。昔と違い、コンビニで1食お弁当を買っていく販売は落ちています。一方で、サラダや副菜を組み合わせて買っていくという形も増えています。情報発信の中で、食べ合わせの提案など、単身の若い人たちに発信もできるのかなと感じています。

以前は金沢周辺を担当していました。金沢市の隣にあります野々市市は、全国住みよさランキングで3番目くらいになっていますが、市の高齢者向け広報誌「ののいち日和」の中に、高齢者の方が豊かに暮らせるガイドがありまして、その中で、コンビニをうまく活用して、こういう組み合わせで買っていると、きちんと毎日食事がとれて、手軽に安全で健康的な生活が送れますよという記事を書いています。我々、コンビニエンスストアだけでなく、スーパーやいろいろなものをうまく使うことで、欠食を防ぐ、栄養バランスの取り方の発信などももっとやっていくべきだと思いますし、私どもも発信が弱いのかなとも感じています。

野口会長： 坂口委員もおっしゃっていたとおり、上越市は、食の生産地でありながら、住みやすいまち、小さなまちに大学があるので、何か取組めることがたくさんあります。魅力発信はまだまだ必要だと思います。

上野委員： 黒田小学校長の上野です。学校教育に関わっている立場でお話させていただきます。まず、将来を担う子どもたちを育てるということで、社会に出る時に判断

力をつけて送り出すことが大切になってきています。

小学校では特に食事の大切さや食事作り、家庭科も含めて6年間やっていくわけです。総合や生活科では、体験をしながら実感を学んでいく。知識として、それが理解できる年齢ということで、5・6年生に家庭科の授業が入ってきます。

そこでは、食の大切さや食事作りが自分でできる、よい食事の在り方を一番よい形のを伝えていく、基本の力を付けていくということを大事にしています。これを家庭実践につなげるというのが大変難しいところです。家庭にはいろいろな生活の仕方がありますので、一辺倒にこういった形がいいですよというところにつながりません。

中学校では、特に食とからめて消費者教育に力を入れてやっていますが、これからの社会を生きていくのは難しいと思います。社会がどういう状態であって、食品を選ぶ時に生鮮食品がいいという神話のような話が出てきますが、加工品がよくないかというところではないわけです。生鮮食品がよい、加工食品のよさもある、いろいろな情報がある中で、何を選択していくか、その力が子どもたちの中に備わっていないと、学校を出て親から自立して自分で生活をするようになった時に判断基準がなくなってしまう、そこが心配であり、選択する力を学校教育の中でもつけていくことを家庭科教育の中で課題としています。

学習の中で体験し改善して、また実践するというサイクルを学んでいくことが、世の中に出た時に問題を解決する考え方を学んで、それに対応する力を付けていく方向性を大切にしたいと考えています。

それから、家庭の協力を得る時に、食に関わらず、聞いてほしい保護者にきてもらえないという時があります。そういう場合は、必ず保護者がやってくる場面、行事に合体して話すなどで、強制的に聞いてもらうこともあります。低学年で給食の試食会を取り入れています、その時に試食をし、栄養教諭の話聞く形を取っています。場を捉えてやっていく、親をどう引き寄せるかが学校としての作戦だと思います。

野口会長： 以前、上越市以外の小学校での取組ですが、運動会の日、校長先生の挨拶を「皆さん朝ご飯は食べてきましたか」というところから始めるという校長先生がおられました。プリントを配って来てくださいますというのは、なかなか保護者の方も参

加できませんが、いかにして保護者の耳に届けるか、学校の現場においては大変ご苦労されながら、場を捉えて情報提供されていると伺っています。

学校、また保育の現場においても保育士のキャリアアップ研修ということで、5つのメインテーマの中に食育が組み込まれていまして、保育の現場においても食育の実践が重要視されています。その中にも家庭との連携、地域との連携という言葉が入っていますので、いかにして地域と連携して学校の体験学習を広げるか、保育園の食育実践を進めるかを現場の先生は悩みながら取り組んでいる状況にあると思います。

池 嶋 委 員： 高田北城高校校長の池嶋です。高田北城高校は、生活文化科という家庭科を専門とする科がありまして、地域と一緒にやっています。家庭クラブは家庭科を学ぶ1年生全員と生活文化科の1年から3年生が所属しています。自分で家にある課題の研究や、地域を含めた全体を研究する活動を行っています。その中で、上越の食文化の魅力があると実感しています。

本校では上越野菜の復活をテーマとして研究し、「農を活かした町おこし」というテーマで地場野菜のブランド化と消費拡大に努めた研究を3年間やりました。地元の料理研究家や調理師からきていただき、上越野菜の優れたところ、上越市ではどのくらい野菜を使っているのかという研究もしましたが、実際に農産物の販売所に行って手伝いをしたり、試食品として高田シロウリで漬物を作り提供したり、地域に入った活動を行いました。小学校へ行ってオータムポエムを使った調理実習をしましたが、これらの研究が全国3位の評価をいただきました。

魚沼では甘酒が人気のようですが、上越市こそ発酵のまちで甘酒が魅力的な町です。去年取り上げて、地元の味噌、醤油醸造所の方から来ていただき、試食していただきました。また、新たな甘酒を使った試食品を開発したいということになりました。

高校では、食育については家庭科の中で学んでいきますが、実際に時間のない中ではありますが、方法は、学校を飛び出て地域の方と一緒に活動する、地域の力を借りて自分たちも学んでいく、こういう活動が食育を高めていくと思っています。

農業高校さんは自分たちでレシピを開発し、商業高校さんはそれをどうやって売ったらいいか考えていますし、工業高校さんは、調理器具などの開発などもできます。自分たちで郷土愛を育みながら、自己肯定感を高めることにつながり、学校としてもすばらしい効果を得ていることを実感しています。本校だけでなく、地域と一体となった取組が大事だと思っています。ポイントは、1年間で結果をだそうと思うのではなく、少しでいいので、持続可能な取組を長く継続してやることだと思います。その中で地域の中での信頼を得たり、いろいろな方とのつながりを得ていく中で、少しずつ食育を学んだり定着させるのがいいのかなと感じています。

この第3次計画は非常によくできていると思います。先ほど評価についてご意見もありましたが、県と国の目標値の比較もありますので、そちらも参考になると思います。

村上市では、朝食が大事だということで、朝食と学力の相関関係はどうかという研究もしていたようですが、はっきりした結果はでませんが、学習面で苦手なお子さんは確かに朝食が安定すると伸びていくという結果も見られたようです。スポーツ面でも体を作る面でも大切ですが、日常の学習をしっかりさせていくためにも大切だと思います。

野口会長： 朝食と学力については、毎年5月に発行されます食育白書の中にも学力と食に関するページがあります。ここ近年、全国学力実態調査と朝食摂取との関係が示されています。しっかり食べる子とよく食べない子との開きが国語や算数で10から15点の差がでてきます。朝食の欠食の理由は多岐に渡りますので、一概には言えませんが、結果として朝食を食べる食べないことと学力の関係は差が出てきています。1点2点が大事だと言われる中で、10から15点の開きがあることは大変なことです。高田高校さんにおいては、保健授業の中で食育の授業が始まります。

上越市には知らないことがたくさんあり、食育に関しては知れば知るほど面白い、どんどん市民の皆さんから生産者とのふれあい、消費流通、小売りの方とのふれあい、教育、医療、健康づくりに関する方とのふれあいなど、いろいろな形で食育は広がっていけるのではないかと思います。

樋口委員：新潟県歯科衛生士会の樋口です。私は歯科衛生士の立場からお話いたします。

保育園や幼稚園にむし歯予防教室を行う際に、保護者に最初の30分間講義を聞いてもらって、親子の歯磨き指導を行っています。特定の年齢に対してしっかりお話を聞いていただいています。むし歯予防のことから、噛むこと、おやつのことなど、食べる動作、口の中の動きについてお話します。特定の年齢の保護者ですので、出席率も高くしっかり聞いていただいています。しかし、そこで分かったことも家に帰った時に、本当にこなしてもらえるかが現実の問題です。

むし歯教室が終わったあと、園長先生とお話をする機会がありますが、保育園に送ってくる時間もぎりぎりで、車の中でジャムパンを食べさせて保育園に来るケースもあり、私たちも愕然としているところです。

今日、皆さんのお話を聞いた中で、お子さんに食べさせる食品を親がしっかり選ぶことが必要だと感じました。小中学校に関しても、歯周病に関して、際立って多くなっていて、自己管理の中で生活習慣病も多くなっているのです。口に関するということについても話をしています。ただ歯磨きをすればいいのではないということも言っています。この年齢は食べる物ものも飲むものも自分で決めていくので、意識を私たちが構築できればと思います。

野口会長：授乳、離乳期でお母さん方は頑張る。その後、離乳が完了すると気が抜けてしまうところがあります。家庭での普及・啓発が全国的な課題だと思います。全国の中でもむし歯が少ない新潟県ですが、歯科に関しては取組みの成果は表れていると思います。その中でも課題はあると思いますので、解決に向けみんなで努力していくことが必要だと思います。

隣の福島県は、小学生・中学生ともに全国ワースト1の肥満大国で、むし歯もワースト3くらいに入ります。隣の県なのにこれだけ違いが出るということは、確実に子どもの頃からの組織的な教育や情報提供がきちんと行われていることが、結果として表れていると思います。

それでは、ほどよい時間となりましたので、意見交換は終了とさせていただきますが、最後に会長の立場から事務局にお願いです。今回資料7で事前に意見をまとめていただいたことで、目で追いながら皆さんの活動が分かりよかったと思います。

一方、会議の開催を増やすことが解決策になるかどうか分かりませんが、情報の集約について、いかにして食育推進会議のみならず、市民の皆さんが身近で気軽に情報を得やすい環境がどんなものなのか、今年度中にもこの検討をしていただきつつ、市民の情報共有できる場の提供、環境整備などが必要かと思いません。

最後に、上越教育大学から情報提供です。私の方で関わっておりますJAえちご上越さんと一緒に取り組んでいるあるるん村の広報誌、上越教育大学の食育サークルが毎月発行しています「食育通信」をお配りしました。あるるん村の中に上越の食育発信のボードを設置していただくことになりました。JAえちご上越のみならず、セブン-イレブンさんの上越市内の店舗など、連携できることはたくさんあるかと思えます。気持ちの熱いところで、頭の中にあるうちに、事務局に意見をどんどん出していただき、委員全員が共有できる形で、まずは委員内の情報の共有を図っていただけるようお願いしたいと思います。

山本委員： どういうイベントがあるかなど、私たちも情報収集しにくいので、一旦市役所集めたものを送っていただくなどの対応をお願いできればと思います。情報をいただければ私もまた発信ができるかと思えますので、よろしく願いいたします。

野口会長： 上越市に来る前に奈良市におりまして、奈良市では月に一度市役所の食育担当者がメール登録した希望者に向けて、市内の食育情報を発信していました。また、年に数回それを3年続けて、食育推進実践局長賞を受賞しました。3年くらいを目途に上越市食育推進会議が表彰されるくらいの取組が行われるといいと思います。

それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局： ありがとうございました。

本日は、それぞれ皆様のお立場から生の声をお聞きすることができまして、事務局といたしましても、いろいろなことを教えていただき、これから仕組み作りを考えていかななくてはいけないと思いました。

それではその他として、皆さまから何かありますでしょうか。

なければ、事務局より2点ご連絡させていただきます。

本日お配りした「食育啓発用クリアファイル」ですが、6月の食育月間に合わせ、家庭科の授業が始まる市内の小学5年生全員に配布したものです。ぜひお使いください。

また、「県立歴史博物館出前講座」につきまして、市社会教育課より情報提供がございます。

社会教育課： 広報上越の8月1日号にも掲載いたしました、「エゴ食文化を探る」ということで、参加者募集を出したところです。山本委員からもいろいろなイベントに参加したいとのご意見がありましたので、知人やご家族に知らせていただき、新潟の食文化を学んでいただき、食育にもつなげていただけるよう企画しました。

講師は県立歴史博物館の大楽主任研究員で、歴史も交えて1時間半お話いただけます。平日ではありますが、ご参加いただければと思います。

事務局： 皆様、長時間にわたり、貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございます。以上をもちまして平成30年度第1回上越市食育推進会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

問合せ先

農林水産部農村振興課

TEL：025-526-5111（内線1812）

E-mail：nouson-shinkou@city.joetsu.lg.jp

その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。